国際文化学部紀要の創刊に当って

国際文化学会長

田　浦　良　也

今春，多くの曲折を経て，九州産業大学国際文化学部が誕生した。国際文化学科，地域文化学科の二学科に，総勢88名の教師陣をかかえてのスタートである。このため，30年間つづいた九州産業大学教養部紀要はその歴史を閉じ，代って，ここに九州産業大学国際文化学部紀要として，粧いも新たに創刊号が登場することになった。

旧教養部時代の豊富な言語・文化関係の人材のまわりに，層の厚い人文・社会科学関連の陣容を擁し，さらには，生活科学などの自然科学関連および健康管理などのメンバーに加えて，新たに10名の新任の諸先生方を招聘することができた。その記念すべき第一歩として，国際文化学会「紀要」第１号を発刊することになったことは，大へん悦こばしい次第である。先ずは，紀要編纂に当られた研究委員会の皆さん，又，多数ご投稿下さった諸先生方に心から御礼を申し述べたい。

いうまでもなく，国際文化学会紀要は，新学部の教育・研究活動の水準を示す鑑である。今後も新学部にふさわしい清新にして潑剌たる多方面の論文が次々と寄せられて紀要が号を重ね，学界の研究に一石を投ずることを願ってやまない。

さて，われわれの国際文化学部は，国際文化と地域文化の二つの学科をもって構成されている。国際文化学科は，世界の言語・文化の夫々の特徴と，その背景にある諸外国の社会・生活の歴史と実態，文化の相互交流などを深く認識することによって，国際的理解と共感をえようとするものであり，他方，地域文化学科では，西日本，北部九州，わけても当地福岡の地域文化の特性と国際交流の歴史にわけ入り，足元から地域文化を掘りおこし，新たな国際交流の道を探ろうとするものである。言ってみれば，国際文化学科は世界の文化をヨコにつなぎ，地域文化学科は世界の文化をタテにつなぐとでも表現することができよう。

発足したばかりの新学部は，輝かしい将来に向けて，まだいくつかの問題をかかえている。国際文化・地域文化両学科の夫々のカリキュラムの純化とその相互交流のあり方，層のうすいアジア・アフリカ関係の教師陣の強化，１学年各学科30名という多数の留学生の教育・生活両面での指導，教育・研究体制をさらに前進させるための大学院創設など，さらなる精進が必要である。

新しい酒は，新しい皮嚢（ブクロ）に盛るべし。国際文化学会紀要第１号の創刊に当って，会員の学生諸君および諸先生方に特にお願いを申し上げたい。心を新たにして，新学部の発展・充実へ，懸命の努力をつくして頂きたい。それと共に関係多方面のご協力，ご支援を心からお願い申し上げる。